

当館の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策について—その8

今第三波の最中ですが、この地域でも、新たなステージになって来たようで、心配の点が二つ加わり現実のものになりそうな気配です。

一つは、かねてから心配していたことですが、万が一当施設にも発生した場合には、直ぐには入院できずに数日間でも施設に留め置かれるリスクが高くなったということです。

その場合、当施設には移室出来る個室がないので、発生した4人部屋では残り3人も巻き込まれるということになります。保健所には転入院を最大限頼み込むつもりではいますが”無い袖は振れない”ということになるかもしれません。クラスターにつながるリスクが極めて高くなります。

二つ目は、当地域でも濃厚接触者に対しての保健所による追跡能力が限界を超えて不十分になってきた気配が出てきたということです。これまで以上に個々の施設での自律的な警戒姿勢が必要になったといえます。

これまでも私たちはもう十分すぎるくらいにスタッフ全員が既に新型コロナを持ち込まないように頑張ってきております。出来ることは今までと同じですが、残念ながらもう少し続けましょうということです。

私達に出来ることは、既に何度も言ってきた、下記です。

介護施設は三密回避ができません。「込まない・持ち出さない・拡げない」の3拍子のうち「持ち込まない」について、完璧には防げないかもしれませんが完璧を目指して現実的な努力してきました。そして今、慣れて気持ちに余裕が出てきた分は、「拡げない」にも少し気を配り、もし知らずに新型コロナが入り込んだとしても、被害を最小限にすることを改めて考えましょう。3密回避不可ながらも、マスク・手指消毒・換気・利用者と職員のまわりの感染情報に互いに気を配り情報共有すること、などに加えて施設内でもできる限りの細かい工夫を致しましょう。一部例を挙げてみます。

①改めて私語を慎む。但し、私語は慎んでもマスクをしながらであれば業務に関することは大いに話し合っても構いません。この際、耳学問を、新しい生活様式の一つとしてみましょう。私語ではなく介護に役立つ話をして耳学問の勉強に役立てましょう。②利用者との対面を避ける等の工夫。③1行為1消毒の徹底のために全員で消毒剤を身に付けて介護しましょう。④新しい生活様式。⑤2週間毎の感染予防委員会の決定事項、報告連絡相談、等の情報共有の徹底をする。

⑥そして、”軽いカゼでも受診” などです。なるべくコロナ検査もして頂いてください。前回もお話した「3つの関門」を通りましょうということです。

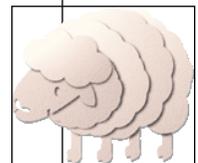
休むことの「うしろめたさ」を気にしないこと、これが一番大事です。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。
私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話し合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。